

南部

老人福祉
ふれあいタウン

シルバーエリア



5周年記念

夏を待っている間に、周りは、いつのまにか秋本番、本来ならば「実りの秋」の到来と言うところですが、今年は異常気象で「実り」も深刻な様です。

当エリアでは、五周年を迎え八月二十一・二十二日、記念の行事を開催し、二十一日の「納涼夏祭り」では、元気を大森太鼓愛好会少年部の熱演で開演、「蛇踊り」「ゴージャス」「踊り」「民謡」と短い夏の一夜を楽しみました。

表紙の写真は夏祭り会場風景です。この時だけは、冷夏もどこへやらシルバーの熱気が伝わってきませんか。



第 8 号

秋田県社会福祉事業団
秋田県南部老人福祉総合エリア

より愛され 親しまれる施設へ

祝 南部老人福祉総合エリア開設5周年 特別養護老人ホーム白寿園開設10周年 記念式典



八月二十二日、当産部シルバーエリア開設五周年、同エリア内特別養護老人ホーム「白寿園」開設十周年の記念式典がエリア屋内運動広場にて行われました。

記念式典には、佐々木知事や阿部大森町長をはじめ南部シルバーエリアの運営に携っている県や町、社会福祉事業団関係者約百五十人が出席しました。

席上佐々木知事は「南部シルバーエリアは、これからの長寿社会を見すえた新しいタイプの施設として、昭和六十三年に開所、県内外の注目を集めました。エリア成功の要因は地域ボランティアのみならずのお陰、これまで以上に愛され親しまれる施設であるようお力添えください」とあいさつ。

続いて、阿部大森町長は「町三千五百人のボランティアの支えとエリア職員の苦勞に感謝、これからは医療体制の充実をはかりたい」と述べました。

式典では、これまでボランティア活動でエリア運営に尽力した、三個人、八団体に知事と町長から感謝状が贈られました。



エリア開設
五周年によせて

管理者 佐々木 盛輝

右手に空き缶と古新聞二枚を、左手に幾枚かの百円玉を固く握り、エリアへ遊びに行くという少年と出勤途中、歩みを同じくした。「ゴミが落ちていたら、拾って定められた場所へ捨てなさい」と家族から教えられているという。町を挙げて地域の為にといい姿勢がここに見られる。

今夏の登さがり、エリアからの帰りという老婦人と公舎の垣根越しの会話では、「数十年前にこの町へ嫁にきた。当時、この周辺は雑然とした草地で夜は鼻が鳴き閑散としていたが、エリアができてからは色々な人との交流がふえ賑やかになった。趣味の活かせる場所もあるし、何よりも嬉しいことは近くで病氣治療を受けられ、リハビリも出来ることです。今は、こちらへ嫁に来てよかった」とずっしりとした感想を述べてくれた。

「秋田県南部老人福祉総合エリア」が開設されて五周年という一つの節目を迎え、今夏、盛大にその式典が行われ少年の行為や老婦人の感想から、町やエリアの存在にさらなる重みを感じられました。エリア構想の提唱以来、ここまで築き上げて下さった関係の方々々に改めて感謝し敬意を表します。

今、エリアの周辺には他では絶対に見られない樹齢二百年を越えいままなお躍動を続ける文人の老松が林立しています。古来を知り、未来を予知するこの名松に見守られながら、明日のボランティアの担い手を育て、入居の方々、地域の方々の健康長寿を促進する事こそ、私たちがやらなければならない課題であると痛感いたします。

【県知事感謝状】

昼川ばっちゃんの会

(高橋貞子代表)

【町長感謝状】

▷個人

佐藤チヨさん(大森町松原)

佐々木擁子さん(同町峠町)

佐々木リツさん(同町菅生田)

▷団体

大森町赤十字奉仕団

(柴田孝子委員長)

川西婦人会(太田ウメ代表)

大森婦人会(湊信代表)

八沢木東婦人会(栗田イヨ代表)

八沢木西婦人会(菊池ヒデ代表)

大森町老人クラブ連合会

(佐々木雅治会長)

大森町商工会婦人部

(菊池十代子代表)

がんばってますボランティア



▲「白寿園」でのボランティア活動
「イキ・イキ楽しそうですネ！」

昨年度（平成四年度）エリアへボランティア活動に来られた方は、四百四十二団体、二千六百九名です。平成三年度は三百四十団体、二千百十四名です。すから年々増加の傾向にあり、その活動内容も、除草、清掃、演芸、視察案内、各種講座・講演の講師と多岐に渡っております。

ところで、エリアでは、この様な地域からのボランティアの他に、入居している方々

の施設内でのボランティア活動も盛んに行なわれており、昨年度の特別養護老人ホーム「白寿園」への他施設からのボランティアは約二千七百名を越える奉仕がありました。その他には、エリア施設内外の環境整備等いろいろな所で頑張って居られます。

この様な、地域・施設内ボランティアの皆様の支えを受け、南部シルバーエリアは五周年を迎えました。これまで多くの御支援をいただきました。ありがとうございます。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

医療と健康

MRSA

MRSA

診療リハビリセンター長

医師 藤本博道

MRSAとは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌のことです。このように言っても、何がなんだかわからない人もいるでしょうから、インフルエンザ、膀胱炎などを起こす微生物の仲間の一種とっておきます。

MRSAが最近、マスコミ施設でも施設内感染が問題となつてきていることから、今回は老人福祉施設におけるMRSAという観点から述べてみます。

その前に、医学的に必要な基本的な知識を確認しておきます。それは、保菌者と、感染症の発症の区別ということ。感染症の発症とは、高い熱を出したり、痰を多く出したりなどという、日常生活に困る状態を作ること、保菌者とは、菌を体内に持っている状態のことです。MRSAは、毒力の非常に弱い病原菌なので、介護にあたって健康な人が発症し、重篤化する事は、ほとんどありません。すなわち、特別養護老

人ホームなどで働いている人の健康がMRSAによって害されることは、まずないということ。又、施設入所者も、寝たきり状態であっても、一般的には、MRSAによって重篤な感染症を起こすことは稀です。

施設で働く人々を中心として、不安を与えているのは、マスコミの必ずしも正確でない報道にも一因があるようです。（例えば、MRSAに有効な抗生剤がない等）。MRSAに対する不適切で過剰な反応は、施設入所者に対する不必要な隔離など、不利益にもつながります。

最後に、この文章は、先日札幌市で開催された感染症予防対策研修会に参加した知識をもとにして書きました。エリアなんでも相談室には、施設向けに書かれたMRSAの資料を用意しておりますので、どうぞ活用して下さい。



コミュニティセンター

コミュニティセンター利用者が、七月二十八日五十万人に達し、五十万人目の人に記念品が贈られました。

このラッキーな人は、仙北町に在住の池田金男さんで家族5人で訪れ、今回の幸運に恵まれました。

コミュニティセンターホールで記念のくす玉が割られた後、佐々木管理者より記念のからくり時計と生きがい創作館で作られた「はにわ」の置物が渡されました。

池田さんは「エリアは職員への対応もきびきびしていて良



く、五十万人目になれたのはすごくうれしい」と語っておられました。次の百万人目は貴方かも……。

養護老人ホーム

さり気ない会話の中から、ひとつの出来事が始まりました。昔を思い出す笹もち作りです。

笹もちを一度も作ったことがない職員の人居者へのお願いに、皆

さん心良く応え、多くの人に集まっていたいただきました。笹を取ってきてくれる人、笹を洗ってくれる人と分担作業を行い、いよいよ本番。手解きを見ては、簡単そうですが真似するのはなかなかむずかしく、何度やってみても一回毎に「どうだっけ」と聞いてしまいます。

入居者のみなさんはさすがに経験者であって、は様々、

軽費老人ホーム(ケアハウス)

六月三十日、横手公園のバラ園見学、十文字町ラッキー館でのショッピング&昼食、浅舞公園のあやめ園見学を行いました。

高貴な香り漂うバラの中、思い思いに散策しバラに囲まれ皆さんで記念写真をパチリ。

お昼は、ラッキー館まで足を運び、ちよっぴりリッチにおすしをいただいたり、皆でワイワイとそばを食べたり、もちろん買物もわすれません。

最後の見学地あやめ園では、お茶を片手に、しばし公園いっぱい咲きほころぶあやめに



うっとり。

お腹も胸もいっぱいになり顔も気分も「バラ色」になった一日でした。

十人十色ですが手慣れた手

付きで「昔はよく作ったものだ」とつぶやきながら、懐かしそうに一つ一つを丁寧に作り上げていました。

出来あがったあとは、みんなでなつかしい味をあげながら、思い出話に花を咲かせていました。

みんな、また何か作ってみたいと思います。



特別養護老人ホーム(白寿園)

去る、九月二十二日に、特別養護老人ホーム白寿園の入居者約50名が、羽後町五輪坂公園へ「なべっこ遠足」に出かけました。

この行事は、どうしても施設での生活が多くなってしまうがちなお年寄りに少しでも遠出して、普段とはちがった気分でごしてもらおうと開所当初より行なっている行事です。この日は、天気にもめぐまれ、自然の中で味わう芋の子汁は格別でした。

お酒も少しいたいて、晴ればれとした気持ちになって民謡や踊りがとびだす程でした。



エリア

老人専用マンション

八月三日、マンション屋上で納涼生ビール大会が開催されました。近年にない冷夏だった為生ビールの売れ行きを心配しましたが、それも取り越し苦労。順調に盛り上がり、太陽が沈み、あたりに暗闇が訪れる頃、童心に帰っての花火大会。火花がみんなの顔を照らし出す。生き生きとした顔、顔、顔。五時半過ぎから始まった生ビール大会、予定の時間を大

幅に延長し名残りを惜しみながら幕を閉じました。



子どもと老人のふれあいセンター

「遊ぼう、ふれあおう、やってみよう」を合言葉に、八月六日、子どもと老人のふれあいセンターで「3ねんこの日」が開催されました。参加したのは、大森町内の小学三年生48名、エリア放策路を使った野外ゲームやバタールゴルフ大会に挑戦しました。

一番、これからも色々な行事を計画しますので、皆さんも是非参加してください。



中でもバタールゴルフは、ほとんどの子が初めてで悪戦苦闘の連続、あちこちのホールで大きな歓声があがっていました。子供は、外で跳ね回るのが

シルバーケアセンター

現在の登録者数は、男性26名、女性42名の合計68名（10月1日現在）です。

平均年齢は75・6歳、最高齢者は、平鹿町醍醐の堀田トミさん92歳（明治34年生）です。（写真）

堀田さんは、冬期間の隔日利用の期間を除いて、毎日元気に通ってきてくださいます。エリアでは、同じ部屋の人たちとお茶を飲んだり、お茶会など各種活動に参加しています。



か利用される方と、利用の形態は様々ですが、みなさんエリアに来ることを楽しみにしています。

診療リハビリセンター

先頃、診療リハビリセンターでは入居者の方の歯科検診（希望者のみ）が行われました。56名が受診し、その内総入れ歯の人が26名。ほぼ半数の人達が自分の歯を失っていました。また中には自分の歯は一本も無く顎で食べているが、不自由していないという方も数名おりました。入れ歯の使用は味

覚の低下にもつながります。人間の楽しみのひとつである「食べる」という欲求に対して歯は掛け替えのないものです。歯を清潔に保ち、よく噛み、よく食べ、いつまでも健康でありたいものです。





貴方も参加してみませんか

- 1月 新春おたのしみ会
- 2月 雪祭り
- 4月 エリア大観桜会
- 5月 生き生き学園開講式
- 7月 エリア祭・オープン記念GB大会
納涼夏祭り
- 9月 エリア杯3市3都GB大会
- 10月 エリア秋の祭典
- 12月 餅つき大会

▶ オープニングは大森太鼓愛好会少年部の皆さんです
(納涼夏祭り)



◀ 寒くても元気(雪祭り)

日頃の活動成果を見てください(エリア秋の祭典)

◀ みんなでたのしく(大観桜会)

